

## 韓国

### 帝国主義同盟に立ち向かう韓日労働者・人民大衆の連帯を！

労働社会科学研究所

ロシア十月社会主義革命107周年記念集会を組織・開催している日本の同志たちに連帯の挨拶を送ります。

107年前、帝国主義戦争の砲火を突き破った十月革命の赤旗のもと、人類は「人間による人間の搾取」を廃絶する偉大な第一歩を踏み出し、以来、社会主義社会の建設という前人未踏の道を歩み、幾多の難関を乗り越えて、輝かしい成果をあげてきました。

しかし、「人間解放」に向けた人類の偉大な歩みは、前世紀末にさまざまな社会主義諸国が崩壊することで、その前進を止め、しばらく後退することになりました。この時、資本のラッパ吹きたちは先を争って勝利のファンファーレを鳴り響かせましたが、かれらが祝杯の盃を下ろす間もなく、ふたたび資本主義の危機は繰り広げられ、世界的な大恐慌となって爆発することになりました。

アメリカ合衆国を筆頭に各国は、いわゆる「量的緩和」と呼ばれる天文学的な金融緩和を行ない、危機を鎮火させようとしたましたが、それは財政危機、インフレーション・スタグフレーションとして跳ね返ってきました。また慢性的な過剰生産とともに、それをさらに拡大させる無人自動化や人工知能の技術が日進月歩で発展し急速に普及することで、生産力と資本主義的生産関係とのあいだの矛盾がますます深まっています。

そのなかで、資本間の競争と資本主義・帝国主義国家間の対立・葛藤が激化し、労働者・人民大衆はインフレ、労働条件の悪化、失業、貧困に、さらには虐殺と戦争に苦しめられています。

このように資本主義体制の全般的な危機が再燃する中で、韓国と日本の支配階級は、アメリカ帝国主義の下位パートナーとして韓米日同盟と対中国・対ロシア・対朝鮮包囲戦略を強化しています。去る7月28日、韓米日防衛相は韓米日安全保障協力枠組み（TSCF）に関する覚書に署名し、これにより韓米日間の軍事関連会議が定期的で開催されるようになり、韓日秘密軍事情報保護協定（GSOMIA）が延長され、韓日物品役務相互提供協定（ACSA）および円滑化協定（RAA）が推進され、6月27日～29日の「フリーダム・エッジ」のような韓米日合同軍事訓練も定期的実施される予定です。在日米軍と自衛隊を統轄する統合作戦司令部の創設とともに、在韓米軍を指揮する僭称「国連軍司令部」と在日米軍を指揮するインド・太平洋司令部の指揮のもと、韓米日軍事一体化が進められ、在韓米軍と在日米軍を統轄する極東司令部の再設置の主張まで飛び出しています。韓米日外相は「政治的リーダーシップの変化があっても、韓米日の協力は継続される」として、これを制度化する韓米日3国協力事務局の設置で合意しました。

このように韓米日帝国主義同盟が強化されるなか、韓国では、日本軍「慰安婦」問題、強制徴用第三者弁済、佐渡鉱山のユネスコ世界文化遺産登録などで日本に見せた韓国政府の態度を「屈辱外交」と糾弾する雰囲気が強くなり、現政権によってさまざまな高位職に任命された極右人物らによる日帝強占期〔訳注：日帝による強制占領期、植民地支配期〕

の擁護、親日・反民族行為の美化、武装独立運動にたいする誹謗などが続き、現政権を「親日売国」政権と糾弾する声が高まっています。こうした雰囲気が続けば、来年(乙巳年)には、日帝によって封建朝鮮(大韓帝国)の外交権が強制的に剥奪された「乙巳勅約」〔読み：いつしろくやく、訳注：日本では第二次日韓協約、韓国保護条約などと呼称されている〕120周年と韓日「国交正常化」60周年を迎え、両国が準備しているという「韓日新共同宣言」の採択とともに、韓国における「反日」の雰囲気は最高潮に達すると思われます。日本でも最近では少し落ち着いたとはいえ、「嫌韓」書籍がベストセラーとなり、放送などでは極右人物が「嫌韓」発言を連発し、街頭では極右団体・デモ隊による在日朝鮮人(韓国人)および朝鮮、韓国に対する「ヘイトスピーチ」が続いてはいませんか？

しかし、わたしたちは明確にしなければなりません。韓国と日本の労働者・人民大衆はけっしてお互いの敵ではありません。わたしたちの敵は、わたしたちを抑圧・搾取している、さらには第三国の労働者を搾取して超過利潤を収奪している、韓国と日本の帝国主義(独占)資本家階級であり、またこれら韓日支配階級の強力な後援者であるアメリカ帝国主義です。

「反日」「嫌韓」の感情は、韓国と日本の労働者・人民大衆に向けられるのではなく、当然にも韓国と日本の支配階級に向けられるべきものなのです。わたしたちは「反日」、「嫌韓」を越えて、帝国主義同盟に立ち向かう韓日労働者・人民大衆の強固な連帯を、さらには韓米日労働者・人民大衆の連帯を築きあげなければなりません。その基礎は、韓国と日本、さらにはアメリカ合衆国の労働者・人民大衆が、自国の支配階級に立ち向かって闘うことのできるイデオロギー的・政治的・組織的力を身につけた実践的・戦闘的闘いであるということもまた忘れてはならないでしょう。

資本主義体制の全般的な危機が再燃し、世界はふたたび恐ろしい戦争と虐殺の時代に突入しています。利益追求が至上命題である資本主義の無政府的な生産によって地球環境が破壊され、猛暑や酷寒、極端な早魃(かんばつ)や記録的な規模の暴雨・暴雪・洪水・台風などの異常気象が相次いでいます。人類共滅にみちびく戦争と気候変動を阻止し、資本主義を超えた新しい社会を建設することは、この時代の労働者階級の歴史的使命です。

もう一度訴えます！ 社会主義革命の赤旗のもとに進軍しましょう！

労働者は一つだ！ 万国の労働者よ、団結せよ！

2024年11月2日

【訳＝土松克典】